Ｑ．６　　児童生徒の学習状況を評価するときに注意しておくことがありますか。

Ａ．各教科等の学習指導では、子どもの学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況による評価が行われており、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する『目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）』として実施することが基本です。この評価は、あらかじめ目標を分析して設定した評価規準によって、目標がどの程度達成されたかを検討するものです。

評価というと、指導後の子どもの状況を記録するためのみに行うものととらえられがちですが、指導の段階に応じて子どもの学習状況を適切に評価することで、教師が自分自身の授業の進め方を見直したり、個に応じた指導の充実を図ったりすることが大切なのです。

また、評価は、子どもが自分の学習を見つめ直し、その後の学習に役立てたり、保護者が子どもの学習状況を把握することで、家庭での学習を促したりする契機となります。そのためには、学習評価に関する妥当性や信頼性を高め、説明責任を果たすことが重要です。

○学習評価の種類

評価は、実施の時期によって３種類に分けられます。何のために評価を行うのか、その目的を明確にしておきましょう。

◇診断的評価

診断的評価とは、一人一人の子どもに適した指導を行うために、指導前に子どもの状況を把握することです。学習の前提要因となる基礎的な知識・技能が備わっているのか、学習内容に関する興味・関心の傾向はどうかなどを調べることで、単元（題材）の指導計画作成や授業構想の資料とします。

◇形成的評価

形成的評価とは、学習の指導過程において学習の達成度を評価することです。この形成的評価を受けて学習活動と指導方法の軌道修正を行います。授業中の子どもの様子を見取って適切な言葉かけをしたり、授業の進め方を修正したり、さらには補充指導を行ったりすることは、形成的評価と指導が一体的に進められている例と言えます。

単元（題材）の途中にも形成的評価を取り入れ、それに続く指導の改善と個別の支援に生かしましょう。

◇総括的評価

総括的評価は、指導後のまとめとして行います。単元（題材）、学期や学年ごとの学習を総合的に評価し、以降の学習や指導に役立てます。

○指導と評価の一体化

学習指導と学習評価は、指導計画等の作成（Plan）、指導計画を踏まえた指導の実施（Do）、児童生徒の学習状況や指導計画等の評価（Check）、授業内容や指導計画等の改善（Action）が、ＰＤＣＡサイクルで繰り返し行われることが重要です。このサイクルを機能させていくことが、指導目標の実現には欠かせません。指導と評価の一体化を図るためには、評価の場面・方法や時期を工夫するとともに、評価結果を学習指導の工夫・改善に生かすことが大切です。